

出水市出水麓(鹿児島県)

(1) 保存地区の概要

地 区 名	出水市出水麓							
種 別	武家町							
面 積	約 4 3 . 8 ヘク タ ー ル							
選定年月日	平成 7 年 1 2 月 2 6 日							
特 徴	中世山城である出水城から続く丘陵地を整地し、格子状に道路を掘り込んで整備された武家屋敷地である。 本地区は「西南の役」や「太平洋戦争」の戦災からも免れ、近代以降の改変が少なく、麓造成時の街路や屋敷地割が良好に旧態を留めている。 武家屋敷を構成する、主屋、武家門、石垣等の、伝統的建造物群が、周囲の環境と一体となって、「麓」の特色ある歴史的景観を今に伝えている。							
特 定 物 件	<table><tr><td>建築物（主屋、土蔵、付属屋、湯殿等）</td><td>9 3 件</td></tr><tr><td>工作物（石垣、表門、井戸、祠等）</td><td>4 9 4 件</td></tr><tr><td>環境物件（樹木、石段、石敢當等）</td><td>3 0 件</td></tr></table>		建築物（主屋、土蔵、付属屋、湯殿等）	9 3 件	工作物（石垣、表門、井戸、祠等）	4 9 4 件	環境物件（樹木、石段、石敢當等）	3 0 件
建築物（主屋、土蔵、付属屋、湯殿等）	9 3 件							
工作物（石垣、表門、井戸、祠等）	4 9 4 件							
環境物件（樹木、石段、石敢當等）	3 0 件							



出水麓伝建地区航空写真



「薩藩御城下絵図(出水)」
鹿児島県立図書館蔵

出水市出水麓(鹿児島県)

(2) 保存地区のあゆみ

昭和51年 (1976)	「出水麓武家屋敷保存会」結成	
	麓地区を「出水市麓武家屋敷」として市指定史跡に指定	
平成元年 (1989)	「出水麓伝統的建造物群保存対策調査」を実施	
平成5年 (1993)	保存地区保存条例の制定	
平成7年 (1995)	「出水麓伝統的建造物群保存地区」の決定	
	『重要伝統的建造物群保存地区』選定	
平成8年 (1996)	「竹添邸」一般公開	
平成10年 (1998)	「出水麓武家屋敷保存会」から「出水麓街なみ保存会」へ名称変更	
平成20年 (2008)	N H K 大河ドラマ「篤姫」ロケーション撮影	
平成21年 (2009)	国土交通省 都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」受賞	
平成23年 (2011)	「税所邸」一般公開	
令和元年 (2019)	日本遺産 「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」認定	
令和7年 (2025)	『重要伝統的建造物群保存地区』選定30周年記念事業開催	

出水市出水麓(鹿児島県)

(3) 保存地区の保存と整備

○街なみ環境整備事業【国土交通省】
道路美装化、街灯、防火水槽等を整備
(平成9～15年度)

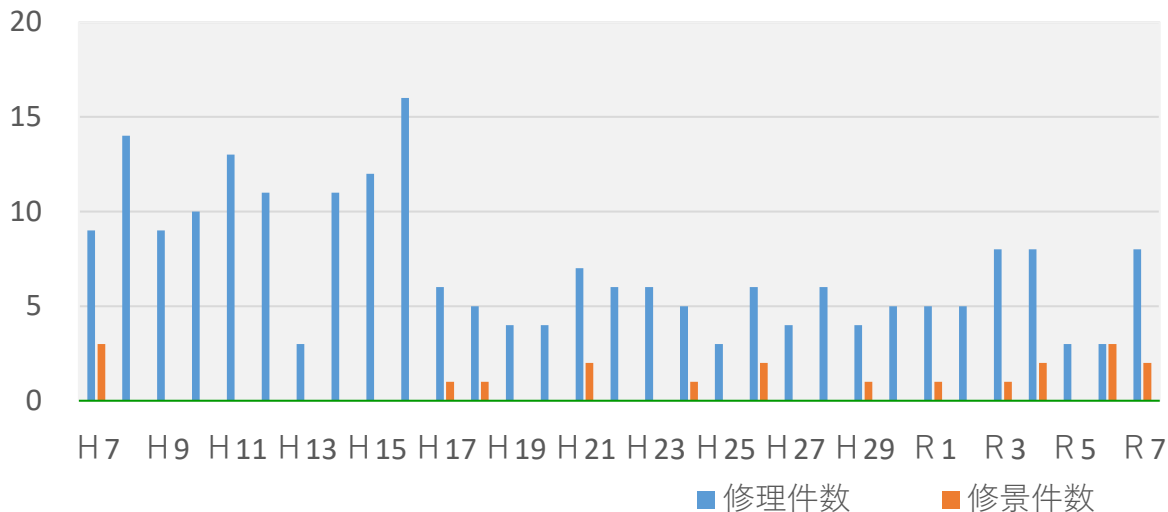
○社会資本整備事業【国土交通省】
無電柱化(裏配線)工事

○県指定文化財保護事業【鹿児島県】
出水御飯屋門修理工事(平成29年度)

○生垣剪定奨励金【出水市】
令和7年度実績 交付件数 169件

○伝統的建造物群基盤強化事業【文化庁】
修理・修景事業直近3年間実績
令和5年度 修理3件
令和6年度 修理3件 修景3件
令和7年度 修理8件 修景2件

修理・修景事業実績



<修理事業>



<修景事業>



<無電柱化(裏配線)>



<出水御飯屋門修理工事>



出水市出水麓(鹿児島県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

VR（バーチャルリアリティ）を用いた体験型コンテンツ
 →出水麓時空ツアーズ（出水麓歴史館にあるライドマシンを操作し、CGで再現された江戸時代の出水麓を散策）
 →現地回遊VRアプリで、街並みを散策しながら、360度パノラマを体験

公開武家屋敷

→市指定文化財に指定されている2つの武家屋敷
 「税所邸」、「竹添邸」を一般公開。

(5) 住民等の取組

地元保存会による取組

→公開武家屋敷を中心に子供甲冑無料体験、ちまきと新茶のおもてなし、七夕飾り、夕涼み会、「いずみマチ・テラス」（竹灯籠祭り）、雛人形展示等の実施。

その他の取組（観光特産品協会）

→観光牛車の運行、着物着付け体験など

＜いずみマチ・テラス＞



＜観光牛車＞



＜出水麓歴史館＞



＜出水麓時空ツアーズ＞



出水麓街なみ保存会理事長

選定後30年経過し、住民の代替わりにより意識の変化や、当地から離れ都市での生活による郷土愛のうすれ、また修理工事に対する助成金があることを知らないという人達が年々増えています。

私達の住む麓は、必ず観光客が押しかけてくるので、これにどう対応するか真剣に考えるべきだと多くの先人達が語ってきました。

歴史的な遺産の中でどのように生活を営むのか、観光客の為の見せ物の街ではなく、将来を見据えた生き生きとした生活が出来る街にすべきであると私は考えます。

都会のコンサルタントの知恵を借りるのではなく、伝建地区で生活している人々一人一人が我が家に何が必要か見極め、風土と歴史性を守りながら新しい生活空間を作っていくべきです。

特定物件の中には荒れた家や土地が数多く存在しますが、一刻も早く修復するべく保存会として努力しております。また、昔から伝承されてきた、郷土芸能を盛り上げ、休止していた行事を復活し、後世に良い環境で継承していくため努力してまいります。